

トラック輸送情報（平成18年11月分）

平成19年2月19日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：浅見、安達 内線28315

直通：03-5253-8344

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

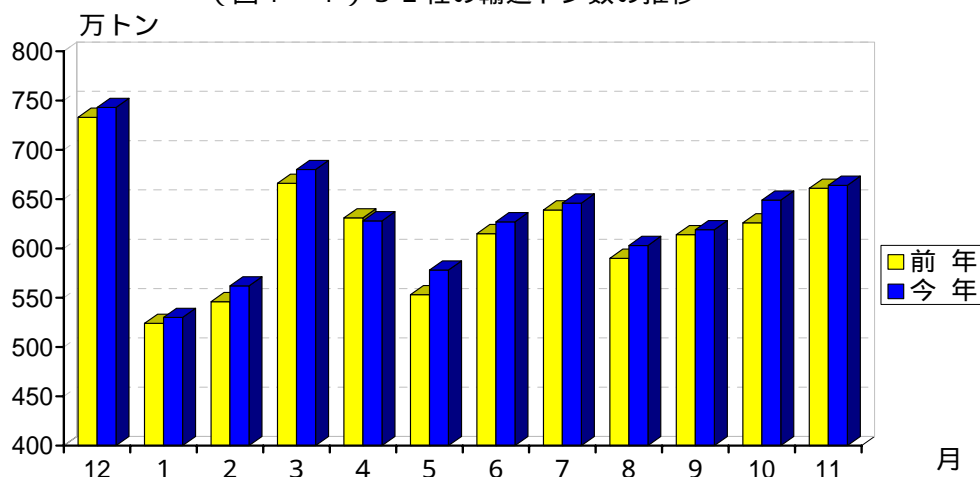
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、6,637,922トンで、前月と比べ、総輸送量が約14万トン増加したため、前月比102.2%（季節調整済み98.5%）前年同月と比べ、約3万トン増加したため、前年同月比100.5%の実績であった。

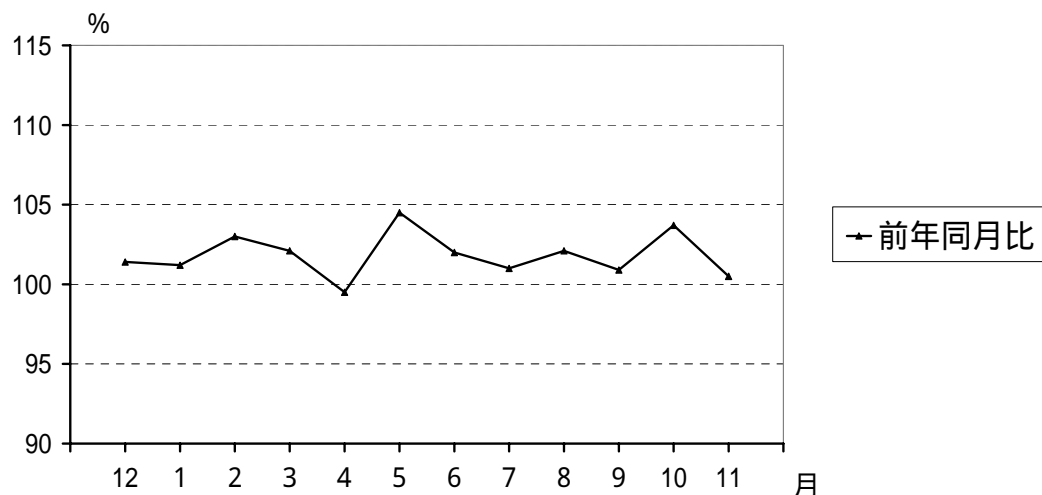
なお、平均稼働日数は23.6日で、前月と比べ0.9日の減少、前年同月と同じだった。稼働1日当たりの輸送量は、281,268トンで、前月と比べ、約1万6千トン増加したため、前月比106.1%、前年同月と比べ、約1千トン増加したため、前年同月比100.5%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

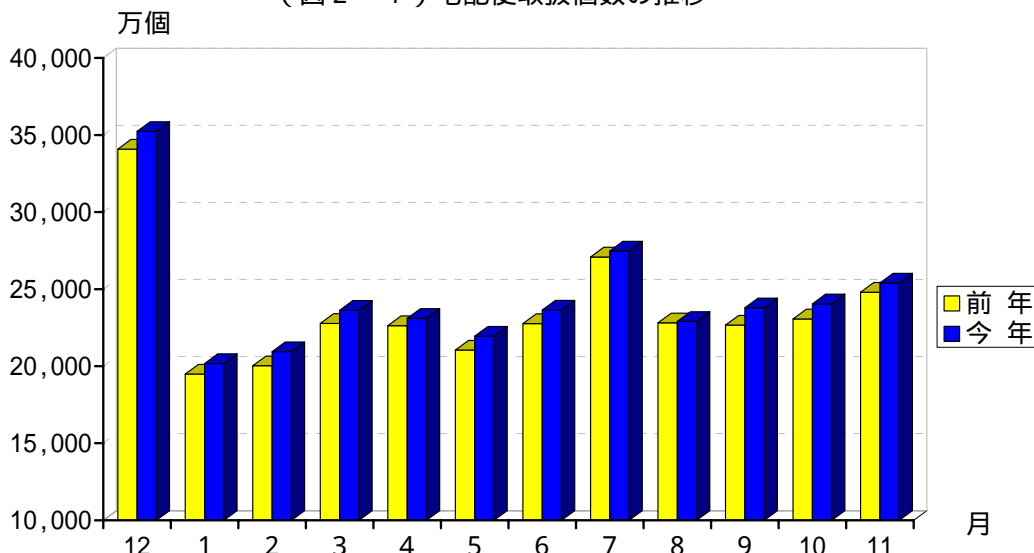


(2) 宅配便の概況

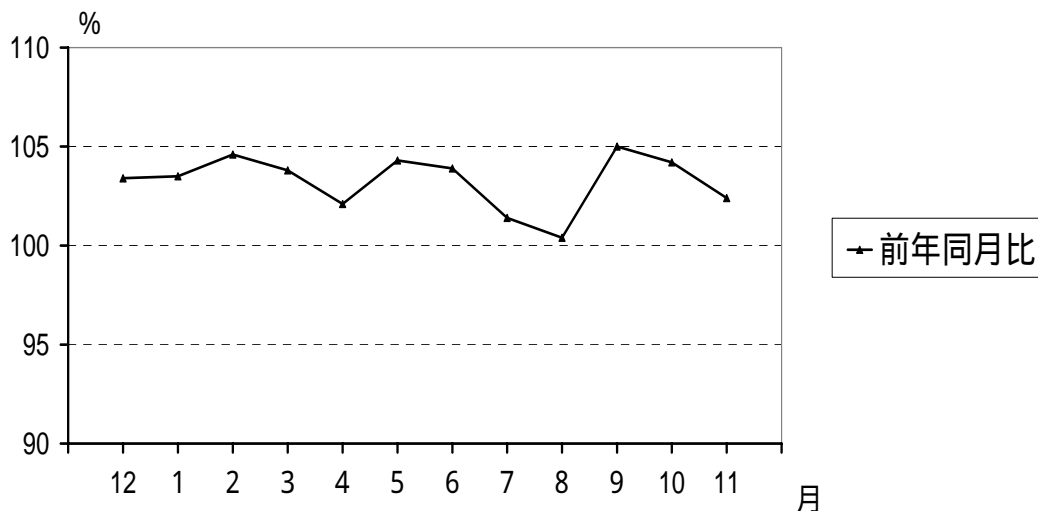
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、253,981 千個で、前月と比べ、約 1354 万個増加したため、前月比 105.6% (季節調整済み 99.7%)、前年同月と比べると、約 595 万個増加したため、前年同月比 102.4%の実績であった。

(図2-1、図2-2参照)

(図2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表1参照)

前月と比べると、稼働日数は減少した一方で、稼働一日当たりの輸送量が増加したため、全般的に貨物量が増加した。理由としては、主に工場・生産地からの貨物増であった。また、日用品は倉庫から出る貨物増が、その他はデパート、スーパーの貨物増があった。

地域的には、金属製品は東京、関東、大阪で、食料工業品は関東、北陸信越、福岡を中心にそれぞれ増加した。また、その他においては全国的に増加した。一方、機械は北陸信越で、化学工業品は関東を中心にそれぞれ減少した。

前年同月と比べると、全般的に貨物量が増加した。理由としては主に新規荷主獲得及び工場・生産地からの貨物増であった。

地域的には、機械が神奈川、兵庫で、食料工業品が神奈川、福岡を中心にそれぞれ増加した。また、その他は全国的に増加した。一方、金属製品が北陸信越で、化学工業品が神奈川、関東、大阪、中国で、繊維工業品及び日用品が関東を中心にそれぞれ減少した。

この結果、全体としては、対前年同月比 100.5%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前月に比べて	農水産品	2		13	2	1			
	金属製品		4	22	1		その他の金属製品	東京、関東、大阪	4
	機械		2	23	2		機械部品 機械部品	北陸信越	
	化学工業品		2	23	4	1		関東	4
	繊維工業品		1	26	2				
	食料工業品		4	22	1		その他の食料工業品	関東、北陸信越、福岡	4
	日用品	1	4	20	4		文具、その他の日用品		4, 7
	その他	1	6	20	1		宅配便、百貨店配送品	全国	2
前年同月に比べて	農水産品		2	14	2				
	金属製品		3	21	2	1	その他の金属製品	北陸信越	
	機械		3	20	3	1	その他の機械 機械部品	神奈川、兵庫	
	化学工業品	1	3	18	8		その他の化学工業品 その他の化学工業品	神奈川、関東、大阪、中国	1
	繊維工業品	1	1	24	3			関東	
	食料工業品		5	20	1	1	飲料、その他の食料工業品、加工食品	神奈川、福岡	1, 4
	日用品		4	21	4			関東	4
	その他		6	22			宅配便	全国	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 806 社 / 調査対象事業者数 1,068 社）の輸送量は、前月比 100.4%、前年同月比 101.7%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前月比	100.4%	97.6%	102.1%	100.3%	101.2%	101.2%	103.1%	99.3%	101.6%	102.5%	103.2%
前年同月比	101.7%	104.0%	102.1%	102.0%	100.7%	99.5%	104.2%	98.9%	100.0%	100.0%	103.7%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比は 97.6%、対前年同月比は 104.0%であった。品目別には、ビートの収穫期による「その他の農産品」が、季節的需要増により「揮発油」、「その他の石油製品」等の輸送量が増加した。一方、一部地域を除いて建築・土木工事が終了したことから「砂利・砂・石材」、「セメント」が、野菜の収穫期終了のため「野菜・果物」が、その他「水産品」、「木材」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しとしては、次月は横這い傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 102.1%、対前年同月比 102.1%であった。品目別には、金属製品の販売増により「金属製品」、「金属鉱」が、冬期シーズンに入りカイロ等の「日用品」が、暖房等に使用する「揮発油」、「その他の石油製品」が、その他、「食料工業品」等の輸送量が増加した。一方、季節的な生産減により「野菜・果物」が、その他、「鉄鋼」、「その他の窯業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しとしては、次月は横這い傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 100.3%、前年同月比は 102.0%であった。品目別には、季節的需要増により「その他の石油製品」が、その他「日用品」等の輸送量が増加した。一方、「その他の農産品」、「食料工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しとしては、次月は横這い傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
北陸 信越	<p>本月の輸送は、対前月比 101.2%、対前年同月比は 100.7%であった。品目別には、冬季に入り、季節的需要増により「揮発油」、「その他の石油製品」が、工場等の増産による「機械」が、その他、「非鉄金属」等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「野菜・果物」が、各種工事の終了に伴い、「砂利・砂・石材」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は横這い傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 101.2%、対前年同月比は 99.5%であった。品目別には、野菜の出荷が増えたため、「野菜・果物」が、その他「その他」等の輸送量が増加した。一方、「その他の農産品」、「その他の化学工業品」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は横這い傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 103.1%、対前年同月比は 104.2%であった。品目別には、季節的需要増により「その他の農産品」が、その他「野菜・果物」、「鉄鋼」、「機械」、「その他の化学工業品」、「食料工業品」等の輸送量が増加した。一方、「砂利・砂・石材」、「その他の窯業品」、「紙・パルプ」、「日用品」、「金属くず」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は横這い傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 99.3%、対前年同月比は 98.9%であった。品目別には、自動車関連の製造が好調なことにより「鉄鋼」、「金属製品」が、建設関係の需要増により「セメント」の輸送量が増加した。また、「その他」も輸出入による影響等で増加した。一方で、生産量の減少等により「木材」、「その他の窯業品」が、ビール・飲料水需要が終わり「食料工業品」が、幹線輸送の便数減や海上コンテナの減少等により「取り合せ品」等の輸送量が減少した。次月は増加傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 101.6%、対前年同月比は 100.0%であった。品目別には、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」が、季節的需要増により「その他の農産品」、「揮発油」、「化学薬品」、「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、「穀物」、「野菜・果物」、「輸送用容器」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 102.5%、対前年同月比は 100.0%であった。品目別には、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」、「鉄鋼」、「セメント」が、季節的需要増により「野菜・果物」、「畜産品」、「揮発油」、「食料工業品」の輸送量が増加した。一方、「動植物性飼・肥料」、「その他」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比で 103.2%、対前年同月比は 103.7%であった。品目別には、前月に続き大型店舗等の建設により「鉄鋼」（鋼材）が、その他「穀物」、「その他農産物」（花卉）「水産品」（まぐろ及び冷凍品）の輸送量が増加した。一方、「食料工業品」（ビール・飲料水）「取り合わせ品」（引っ越し荷物）の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は増加傾向、以降は減少傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局											全国計
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄		
1. 穀物	増		3					1			1	5	
	減	1	3		1			1	1			7	
2. 野菜・果物	増	4	1	1		1	1	1	1	8		18	
	減	6	2	1	3				2			14	
3. その他の農産品	増	8					1		1		1	11	
	減	2		3	1	1		1		1		9	
4. 畜産品	増									2		2	
	減												
5. 水産品	増			1						1	1	3	
	減	5	1									6	
6. 木材	増			1								1	
	減	3	1		1			2				7	
7. 薪炭	増												
	減												
8. 石炭	増	1							1			2	
	減				1							1	
9. 金属鉱物	増		2									2	
	減	1						1				2	
10. 砂利・砂・石材	増	7	3				1	2	1	6		20	
	減	11	4		1		2	1		3		22	
11. 工業用非金属鉱物	増		1					1				2	
	減							1				1	
12. 鉄鋼	増	1			1		1	3	1	4	2	13	
	減		2		1					1		4	
13. 非鉄金属	増			1	2							3	
	減							1				1	
14. 金属製品	増		3	1	2	1	1	3		1		12	
	減			1			1			1		3	
15. 機械	増			1	3	1	2	2	1	2		12	
	減			2		1	1	3		2		9	
16. セメント	増	1	1			1		3	1	5		12	
	減	4	1							2		7	
17. その他の窯業品	増	1								1		2	
	減		2					1	2			5	

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	3	1		2				1	2	
減												
18. 揮発油	増	3	1	3	3		1	2		1		14
減	1			1		1	1					4
19. その他の石油製品	増				1							1
減	1											1
20. コークス・ その他の石炭製品	増				1							2
減	1								1			2
21. 化学薬品	増			1						1		2
減								1		1		2
22. 化学肥料	増			1						1		2
減	1									2		3
23. その他の化学工業品	増		1				1	1				3
減			1			1		2				4
24. 紙・パルプ	増	1	1			1			1	3	1	8
減	2			2			1	3	1	1		10
25. 繊維工業品	増					1						1
減												
26. 食料工業品	増	1	3	1			2	2	5	2		16
減			1	3				5			1	10
27. 日用品	増		1	3		1		1		1		7
減	1					1	1	1				4
28. その他の製造工業品	増		2				1	2				5
減			2					1		1		4
29. 金属くず	増											
減							1				1	2
30. その他のくずもの	増							1				1
減												
31. 動植物性飼・肥料	増	1							1			2
減	1		1							4		6
32. 廃棄物	増	2								2		4
減				1						3		4
33. 輸送用容器	増	1		1						1		3
減								1	1			2
34. 取り合せ品	増		1					2				3
減								4			1	5
35. その他	増			1	1	4	1	3		1		11
減			1		1	1				4		7